

5月の行事

- 3日 憲法記念日
- 4日 休日
- 5日 こどもの日
- 〃 フランス船籍クルーズ 船瀬々野浦沖に停泊
- 6日 振替休日
- 9日 甕島地域コミュニティ会長会議
- 10日 甕島ツーリズム推進協議会
- 13日 地区防災会議 18:30
- 19日 葬祭場意見交歓会

長浜コミセン 11:00

西山地区

コミュニティ協議会だより

【(西風) 令和6年度5月号】

発行：西山地区コミュニティ協議会

会長 中村史傳

令和6年5月10日発行

薩摩川内市下甕町瀬々野浦 1194

TEL 09969-5-0122

FAX 09969-5-0355

令和6年度定期開かれる

4月25日(日)午前10時からコミセンにおいて開かれました。

総会は構成員66名中、39名出席。委任状15名、計54名で成立し議事が審議されました。

会長あいさつ、議事と進行了しました。議長は中村周二さんが選出され令和5年度事業報告、決算報告、監査報告がなされて承認されました。引き続き令和6年度事業計画、予算案が提出され、これも承認を得ました。

会長あいさつでは、人口減少と高齢化という状況だが、今までの事業を止めるのではなく中身を、健康増進・福祉増進の立場で、工夫しながら続けようと言われました。

これまで運動会に来ていた九州情報大も有志が参加され、関西西山郷友会も有志が参加のつもりですということも報告されました。

令和6年度は役員は引き続き、そのまま一年の任期を務めます。



大量に取れたヨモギ採り

今年は例年より雨が多く、のびのびになっていた

ヨモギ採りは4月10日実行されました。ヨモギ採り、

しのべ作業に参加されたのは23名

他に帰省中などの参加者が4名あり、合計27名の大人数となりました。

750gの袋が49個できました。

ところで右下の画像ですが、3月31日に撮影したものです。

倒木は前日コミュニティ会計の山下誠さんが発見し、撮影は次の日です。翌日の辞令交付式に写真を見もらって片付けを依頼したら、4月2日には片づけられていたようです。今年もまたシルバーの方々にお世話になるなあといいながら、大内浦線のヨモギ採りが、何の憂いも無く出来そうだなと思いいました。

後はコッパに切るイモの出来栄が気になるところです。

島内では大変な人気のコッパン餅です。地域の特産品として守っていきましょう。



恒例の花壇整備・花移植終わる

西山高齢者クラブ（会長 宮野武矩）



4月30日花壇整備が行われた。

集まった方々はご覧のとおり数えて19名。花にも劣らぬ皆さん美男・美女ぞろいだ。場所は南国交通バス車庫前。すでに咲いている。暫く住民の心を癒し、訪れる方々の心も和ませてくれるに違いない。参加者の皆さんありがとうございました。

クルーズ船はやってきた

が悪天候のため上陸できず

5月5日瀬々野浦沖にフランスポナン社の「ル・ジャックカルティエ号」が姿を見せた。当日は税関職員や薩摩川内市の職員の皆様、地元からは手製の旗を作って参加した人もいたが、折からの強風で上陸は出来ず、そのまま五島列島の方へ行ってしまったそうです。当日はまた、前の平展望所のライブカメラに出郷者の皆様の目が集中したようです。



シリーズ14

故郷を深く浅く探る

多忙な五月 中村史傳

五月は農作業が多忙な月であった。稲作が早期栽培によって早まった。昭和三十年代には五月初め頃が田植えの最中で、今のようにゴールデンウィークの祝休日で長い休暇はなかった。その代わりに農繁休暇が二日ほどあった。

小学校高学年ともなれば一人前の働き手として手伝わされ。田植えは親類縁者、隣近所大勢の人が朝早くから山田に行き午前中には終わっていた。

昼飯はツワの葉を皿に、萩の木の枝を折って箸とし、白飯を盛り、魚のアラで煮染めたツワを菜に、野外で大勢で食う飯のうまかったこと。

田植えが終わると山畑の麦の収穫の時期。麦秋（ばくしゅう）である。黄金色に穂った麦刈り。ムツガラ（麦稈）ごと切り取り、センバやサシで脱穀した。また、浜に発動機をすえ付けてノギを飛ばしながらやっていたのは脱穀の作業だったのだろう。

夏休みになって青瀬の水車でやってもらう押し麦つきが、精麦の工程だったのだろう。

小麦、大麦、裸麦等が作られ、そのうち麦飯となる。醤油、酢等を作るのがおむぎ、ソーイのガラ。スのカスまでも捨てられなかった。丸麦飯は炊くのが大変。ハツタイ粉は、大麦玄麦を煎って石臼でひいた。これに砂糖を混ぜて湯を入れて練ったものはまたとない、おやつであった。

麦の刈り取りが終わると畑を打ち返してカイモ植え付けの準備だ。

今のカイモ植えは昔からするとずいぶん早くなった。六月に入らないとモシ床のカブラは植えられる状態ではなかった。忙しいのは農業だけではなかった。

五月のシオドキ（大潮の干潮時）にはブト（テングサ）の口明けもある。カツギにおぼえのある人たちには農事の合間をぬっての磯行きとなる。

このように多忙を極める五月であった。

さようなら山下峯生さん



去る4月10日、93歳でお亡くなりになりました。

私たちは大変お世話になって来ました。最大の功績は西山―青瀬間にトンネルをといて請願活動を展開されたことでしょうか。ありがとうございました。